

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)
19、20は国字で答えること。

(三) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 岡隴の緩やかな起伏を辿る。
2 禍乱を戡定して天下を一統する。
3 卷織料理で客をもてなした。
4 日没を待たず溘焉として逝く。
5 卮酒に月を浮かべる。
6 田圃の悪莠を芟除する。
7 勲造の大業に尽瘁した。
8 蓖麻子油を下剤に使用する。
9 大濤が白鬣を振るって押し寄せる。
10 羸瘠の身で諸国遊説に出立した。
11 耨耜の具を入念に手入れする。
12 先師の凜烈たる遺偈に接する。
13 緡銭を投げて寄越した。
14 醴泉を飲み竹の実を食う。
15 怪光を放つ孛星が天空を掠めた。
16 両者の間に蟻垤と山岳の差がある。
17 名家は苛察にして緻縵す。
18 太祖崩じて抔土未だ乾かず。
19 危梁鮮剥し漬墨虫穿す。
20 状貌釜釜として峨峨たり。
21 故人の愛でた梅花に涙を濺ぐ。
22 鍼の金作りの太刀を佩く。
23 尽れた花に園の盛期を思う。
24 髭を入れて結い上げた。
25 庭に柵筏を植栽する。
26 先ずきれいに鱗を刮いだ。
27 諸人を屏けて偶語する。
28 才の菲きを自ら愧じる。
29 鞏むるに黄牛の革を以てす。
30 安らかにして且つ燠かなり。

- 1 イチルの望みを残す。
2 ナマジ教えたのがいけなかった。
3 姉妹ともにウリザネ顔の美人である。
4 テンシ板に蝶を固定する。
5 小舟を岸にモヤウ。
6 新商品開発に各社がシノギを削る。
7 乳児が頻りにナンゴする。
8 両家のイヤサカを祈る。
9 サイの河原で石を積むに等しい。
10 己がセイシヨウの具に任せて漫遊する。
11 全篇にカイギャク精神が横溢する。
12 ツチノエイヌの年に政変があった。
13 機を逸しゼイセイの悔いに苛まれる。
14 ムズカる赤ん坊をあやす。
15 学資を欠きキノクを展ばし得なかった。
16 いかなる法規にもキノクされない。
17 海で採った海苔をスク。
18 髪を丹念にスク。
19 ハタハタの干物を土産にする。
20 庭の雑草をムシる。

- 1 くどくどしく長々と述べること。
2 おしゃべり。
3 逆らいそむくこと。
4 よろめき歩く。
5 かたくなで愚かなこと。
かいいい・がんろう・じよせつ
そこ・ていかい・ふらち
まんさん・ろうぜつ

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- (1) 錯節 風声 (6)
(2) 定省 跳梁 (7)
(3) 陣馬 朮羹 (8)
(4) 萍寄 余韻 (9)
(5) 明珠 多蔵 (10)

うんゆう・おんせい・がいしゆ
かくれい・こうほう・じようじよう
ばっこ・ばんこん・ふうししよう
よくい

問2 次の1〜5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- 1 丸のみにして味得しない。
2 政治に私情を差し挟まないこと。
3 天子の使者が勅状を携える。
4 遠く離れた夫婦が思い合う。
5 強欲で残酷な人。
鳳凰銜書・南橋北枳・封豕長蛇
巫雲蜀雨・漿酒霍肉・渾崙吞棗
甕裡醢鷄・孔翊絶書

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(五) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- | | |
|-------|--------|
| 1 胡籛 | 6 金鐘児 |
| 2 紫薇 | 7 繡眼児 |
| 3 馴鹿 | 8 馬鮫魚 |
| 4 萵苣 | 9 王余魚 |
| 5 華盛頓 | 10 桃花鳥 |

(10) 1×10

(七) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。

□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 直諫 | 6 嚙語 |
| 2 明晰 | 7 盜品 |
| 3 恬淡 | 8 登極 |
| 4 鄙俗 | 9 遠近 |
| 5 誹毀 | 10 結納 |

(20) 2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分

(20) 2×10

を漢字で記せ。

- 1 イツボウ相挿む。
- 2 鼻中の白毛はエンオウの使い。
- 3 テイヨウ藩に触る。
- 4 切なくなればウズラも木へ登る。
- 5 セイヨウも垂棘を穢す能わず。
- 6 ソウユ且に迫らんとす。
- 7 テイワの内、蛟竜を生ぜず。
- 8 三人寄ればクガイ。
- 9 老いてトフの功を知る。
- 10 天下の至柔は、天下の至堅をチテイす。

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

(10) 1×10

〈例〉健勝……勝れる ↓

けんしょう
すぐ

- | | |
|--------|-------|
| ア 1 炯誠 | 2 炯らか |
| イ 3 嗤詆 | 4 詆る |
| ウ 5 仆偃 | 6 偃す |
| エ 7 麤細 | 8 麤い |
| オ 9 淤闕 | 10 闕ぐ |

(九) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30) 2×10
1×10

A 響きはいよいよ高くなりて、殆ど双耳も聳せんばかりなるあたりに至りて、われは漸く其の姿の全面に対するを得たり。滝の瀉下すること恰も万弩の斉しく発したるが如く、百川の大海にチヨウソウウするが如く、殆ど人をして仰ぎ見るに堪えざらしめんとす。ことに飛沫は霧に交じりて衣袂を湿し、水烟は雲を凌ぎて半空に渦上し、鏗然として岩石相重なる深潭に落下するさまの凄まじさ美しさ、ああわれは如何にしてこの奇極まり快極まれるの景を記さん。普陀洛寺を過ぎて海辺に出ずれば、潮風更に雨脚を吹きて、一枝の²コウモリ傘は殆ど将に吹き飛ばされんとす。われは³ロクロを押さえ、て纒かにそれを凌ぎつつ、怒濤の烈しく岸頭の岩石に咽べる間を、いと覚束なくたどり行けり。

(田山花袋「熊野紀行」より)

B 第一銀行は海運橋の東岸、兜坊の北隅に在り。本廈は溝渠に枕んで基礎を起こす。五層の大楼、突兀巍峨として、大都の中央に屹立す。矗立凡そ十二丈、一層は一層より高く、一楹は一楹より聳ゆ。望めば則ち小阿房の如く、近づけば則ち大伽藍に似たり。一層毎に彫欄を架し、彩華映射、只恨む、妃嬪の紅袖を懸げざるを。窓戸、皆ハリを掩う。水光⁵テキレキ、願わくは天女をして繡幕を撐げしめん。屋頭に至つて三尖を為し、尖頭各長杆を建つ。左右は則ち金箭を貫いて方角を指し、中心は則ち白旗を掲げて標牌と為す。恰も一片の金旗、蒼空に飄飄し、闔都のシヨウコを指揮するが如し。乃ち是開化の枝葉繁茂して、東京の金花爛漫たり。

(服部撫松「東京新繁昌記」より)

C 嘗て將軍の近臣を諭す。大意に謂う、「節義を奨め、輕薄を擯げ、士民を愛し、賞罰を信にし、賜賚は濫りにするなかれ。国の臣あるは猶木の枝あるがときなり。枝、偏大なれば則ちその根を蹶す。猶鷲鳥の爪翼あるがときなり。その爪翼を愛するは、搏撃を期する所以なり。凡そ天下の乱は、主將の欲を縦にして、宰臣の権を専らにするに起る。民の⁷コウケツを浚えてこれを府庫に盈つるを目して能臣という。これ君の為に怨みを蓄うるのみ。且つ才能を恃む者は、必ず旧法を以て⁸ウセツとなし、動もすればこれを更改せんと欲す。凡そ政はその旧に因るに在り。夫⁹カイチュウの習いは鉄の如く、衣纓の習いは金の如し。新法を建立し、その華飾を務む、これ¹⁰大蠹なり。我が家の法度は、皆ソコウ、耆旧と議して、深く謀り遠く慮つて、その弊なきを期せり。」

(頼山陽「日本外史」より)